

第16回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年12月19日(金) 13:05～16:05

場所:Jヴィレッジ アルパインローズ

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長(代理)

農林水産省:安岡研究調整官

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長(代理)

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、土井事務局長補佐、吉田事務局長補佐、江口対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、岡山対策官、小野対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永所長、有賀審議役

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○年の瀬も押し迫った御多忙の中、皆様におかれてはお集まりいただき感謝。

○まずは関係者の皆様には、一年間この大きな問題に一丸となって取り組んでこられたことに敬意を表させていただきたい。

○汚染水の浄化や凍土遮水壁の凍結開始など、年度末を目標とした対策も多くあるので、今年の残る期間や、年明け以降も、一つ一つの取り組みを着実に進めていけるよう、引き続き一緒に取り組んでいただきたい。

○本日、現場を視察し、対策の進捗を実感した一方で、一昨日 ALPS 処理水を漏えいさせた現場も見てきた。多くの作業員の努力により、様々な対策が進捗していても、一つのミ

スがあると信頼を損なうことになってしまうので、誠に遺憾である。この件に関しては、原因分析や再発防止策などについて報告を受ける。

○1号機原子炉建屋カバーの解体工事については、11月から12月にかけて行ったガレキ調査の結果や、その間のダストモニタの監視結果等について報告を受ける。

○また、東北地方は冬の寒さが厳しく、この季節は雪や凍結等による影響が危惧される。これらに起因する災害の発生を未然に防止する必要がある、本日は凍結防止対策について報告を受け、意見を頂きたい。

○その他、重機・車両からの油漏えい状況について、前回も対策の実施状況について報告を受けたところであるが、今回も更なる対策を検討した結果について報告を受ける。

○多核種除去装置（ALPS）については、稼働状況及び試験状況について報告を受けるとともに、各汚染水処理設備の今後の改良工程や本格稼働への道筋について説明を受ける。

○タンクの設置等については、タンクの建設進捗状況について説明を受けるとともに、来年4月以降の計画も含めた今後の建設計画、水バランスシミュレーション、フランジ型タンクのリプレイスのスケジュールについて説明を受ける。

○海水配管トレンチからの汚染水除去について、2号機トレンチのトンネル部分の充填がほぼ終了しており、その進捗状況について報告を受けるとともに、3号機、4号機への対応について今後の方針、詳細スケジュールについて説明を受ける。

○その他、サブドレン、HTI建屋接続トレンチの止水対策、凍土遮水壁等についても進捗状況の報告を受ける予定。

○本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題3

<資料1-3>

- ▶ 今回の調査では、カバーの外で吹いている風が中のダストの吹き上げ等にどのように影響するかを明らかにしていくこと。
- ▶ オペフロの健全性について、カメラで見ただけでは正確に判断できないと思われるところ、慎重な対応をお願いしたい。
- ▶ 県からもダストサンプリング等の結果について、報告をお願いしたい。
- ▶ 平成25年度に起きた放射性物質の米への付着が何を原因として起こったのかは未だ不明であるところ、今後とも原因究明に努めたいが、関係者の皆様には協力いただ

きたい。また、作業の進捗感を示し、農作業が次のステップへと進める判断につながるような、現場への安心感を与える情報提供をお願いしたい。

議題6

<資料1-6>

- ▶ これまで汚染水漏えい防止を繰り返し求めてきていたところ、今回の漏えいについては大変遺憾。対策の徹底をお願いしたい。
- ▶ 今後は、手順書作成にあたり、担当者間でどのような役割分担の下、チェックを行うのかについても整理していくこと。
- ▶ この事故の同日に、①福島県の漁業者による新橋での試食会、②韓国の調査団の来訪があった。漁業者は今やっと前を向いて動き出そうとしているところ、1つのミスで信頼を大きく失うということをしっかり自覚をし、再発防止に努めていただきたい。
- ▶ 移送されるタンク側でチェックすべきではないか。設備の確認についてどのような体制で行うべきか検討し、改善すること。
- ▶ ミスの原因が「思い込み」を発端とするものだとすると、チェック体制を見直すことが必要。

議題8

<No①-8：2，3，4号機海水配管トレンチ止水・閉塞工事の進捗状況について>

- ▶ トレンチの閉塞に向けては、水の巻き込み等の評価を行うとともに、汚染水の漏えいがないよう、確実に対応いただきたい。

<No②-5；凍土遮水壁工事の進捗状況について>

- ▶ 凍土遮水壁について、10ブロック以降の海側の貫通施工について、規制庁の認可を早急をお願いしたい。
- ▶ 海側の凍土壁については、それぞれの配管について確認を行っていたため時間を要したが、現在はその確認も終わったため、認可を急ぐ。

<No③-1：タンク建設進捗状況>

- ▶ タンク増設に関わっている作業員から「安全管理が不十分」という情報が県に入っている。是非、安全の確保には万全を期して欲しい。
- ▶ タンク増設については、一時期の逼迫した状況と比べると軌道に乗ってきた感じはあ

るが、タンクは汚染水のリスクとも関連することから、慎重かつ着実に作業を進めること。

- ▶ フランジタンクの解体については、過度な対応ではなく、合理的な方法で進めるべき。工程については、作業の進捗状況を踏まえ、適切に見直し、次回報告すること。

<資料外>

- ▶ 福島県の魚、特に旬のマダラ・ヒラメやについて、濃度が下がってきている。試験操業の対象魚種の拡大は大きな前進。今回の資料にはないが、海底被覆や港湾内魚の駆除といった対策を進めて欲しい。

(3)次回以降の日程

○次回は1月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)